

広島かき食害対策ネット開発のための 食害実態調査

研究期間：平成20年度【調査研究】

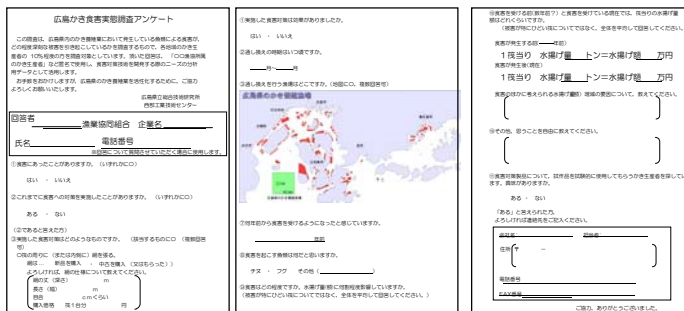
研究の目的

県内製網企業と共同で、養殖中のかき稚貝に対する魚類の食害を防止するネットを開発することとした。県内かき生産者の食害対策ネットに対するニーズを把握するため、かき生産者へのアンケートと、被害に遭った筏の水揚げ調査を行い、かき食害の被害実態について調査を行ったので報告する。

研究の内容

①県内かき養殖業者37経営体を対象にアンケートを実施し、26件から回答を得た。

②平成19年度秋に通し換え直後、8割の食害にあった筏の水揚げ量を調査した。



研究の成果

①アンケート結果

表 アンケート結果の概要

問	回答者数	回答内容
①	26	食害を受けたことがある100%、ない0%
②	26	食害対策を実施したことがある88%、ない12%
③	23	実施した対策（複数回答可） ・網を張る 47.8% ・時期をずらす39.1% ・漕を束にする73.9% ・水面を叩く17.4% ・その他17.4%
④	21	対策は効果あり86%、なし14%
⑤	25	省略（年間通じて実施されていた。）
⑥	25	省略（県内のほとんどの漁場で実施されていた。）
⑦	26	食害を受け始めた時期は7.3±4.2年前
⑧	26	食害を起こす魚類は？ ・クロダイ92.3% ・フグ96.2% ・その他（ナルトビエイ、ウマヅラハギ、イシダイ、アカニシ）
⑨	24	食害の程度と水揚げ量（額）への影響 4.3±1.7割程度の稚貝が食われ、 3.5±1.7割程度減少した
⑩	17	食害が発生する前後での水揚げ量・額の変化約40%減 食害が発生する前（8.4±5.0年前）は 筏1台当り4.2±1.3トン=水揚げ額203±50万円 筏1台当り2.5±1.1トン=水揚げ額120±40万円
⑪	26	食害対策製品について、 興味がある86%、無い14%
⑫	15	その他、自由記入（採苗・食害に関するものを抜粋） ・資材費高騰、水揚げ減少で大変です。 ・ネットが汚れ対策効果もあるなら、買う価値が上がります。 ・ネットの設置・取り外しに係る労力がかかる。 ・下水処理の高度化により、栄養源が減り、餌となるプランクトンが減少しているのでは。 ・漁場の海底清掃が必要。 ・食害対策にもっと強い御支援をお願いしたい。

②水揚げ調査結果

表 各区の出荷可能なかき個体数と剥き身重量

コレクター 枚数	上 中 下 合計				
	総数	34	42	29	105
生	18	32	20	70	
死	16	10	9	35	
生残率	53%	76%	69%	67%	
生/枚	0.95	3.20	1.54	1.67	
剥き身	総重量(g)	224.9	366.0	219.7	810.5
	平均	12.5	11.4	11.0	11.6
	偏差	2.60	4.13	3.83	3.70



写真 かきが1つも付いていないコレクター

筏1台当りの水揚げ量=0.56t(通常の13.6%)

かき稚貝の食害被害は大きく、
使いやすく効果的な防除ネットの開発には、
大きなニーズがある！